

異文化体験記

◎和歌山県職員による「異文化体験記」です。

皆さん、こんにちは。私は中国山東師範大学にて研修中の川口喜寛と申します。中国の生活において、私が一番驚いたことは、QRコードを利用した決済がとても普及していることです。今回は、中国のQRコード決済について、ご紹介します。

中国のQRコード決済には、ウィチャット（wechat：微信）とアリペイ（Alipay：支付宝）というスマートフォンのアプリを使用します。「アプリで支払い（決済）をする」と聞いた場合、クレジットカードのような事後の口座引落としやプリペイドカードのような現金のチャージといった支払方法を思い浮かべるかもしれませんが、中国では、そのウィチャットやアリペイというアプリを使用して、店側のQRコードを読み込んだり、自分のQRコードをスマートフォンに表示して店側に読み込んでもらうだけで支払いが完了します。支払う前に、アプリと自分の銀行口座をあらかじめ連結させておくので、QRコードを読み込んだり、読みませたりした段階で、口座から利用代金が引き落とされるので、現金のチャージする必要はありません。支払った代金は、すぐにアプリを通じて通知が来るため、その場で金額の確認もできます。支払い時に、現金を出す必要がなく、スマートフォンのQRコードを立ち上げて、読み込んだり、読みませたりするだけの作業ため、とても簡単に利用できます。

レストランなどでQRコード決済が利用できるのはもちろんのこと、スーパーマーケット、ホテル、タクシー、公共料金、現金のやり取りが当たり前だと思われていた屋台の支払いにも利用することができ、日常生活のほぼ全ての部分で、その利用ができます。2017年に日本銀行が発表した調査レポートでは、その利用率は、98.3%と記されました。中国は、すでに世界最大の電子決済市場といわれており、キャッシュレス化が進んでいます。

そこまで普及が進んだ背景には、クレジットカードなどの決済システムの普及率の低さ、QRコード決済の設備投資に係る店舗側の負担の低さ、急速なスマートフォンの普及、利用者側にとっての簡易性など様々な理由があるといわれています。



また、近年の日本への中国旅行客の増加を受けて、日本でもアリペイによるQRコード決済ができるようになってきました。中国旅行客が頻りに訪れる空港や都市部の百貨店、家電量販店などで既に導入が進み、最近では、地方のローソンやJTBの提携するホテルや飲食店でも導入され始めるなど、中国のQRコード決済の普及は、日本全国にも広がっています。

日本におけるQRコード決済は、「LINE Pay」「楽天ペイ」「Origami Pay」が代表的なサービスとなっています。これらのアプリによるサービスが始まったのは、ここ1、2年ですが、日本でも徐々にQRコード決済を利用できる環境は整ってきています。とくに、【LINE Pay】における日本の登録ユーザー数が3,000万人を突破していることを考えると、今度、ますます、QRコード決済の利用環境は、整備されていくのではないのでしょうか。先進国の中では突出した現金大国の日本ですが、キャッシュレス化が進んでいく可能性は大いにあると思います。

〈川口喜寛（平成29年9月より中国山東師範大学にて研修中）〉